

## 事業報告書（令和2年度）

事業名 身近な人と日常の暮らしを守る人間関係

団体名 いろは邑

担当者名 江崎英子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日 時：令和2年11月3日（火） 10：00～

場 所：Earth8ight 6階

参加対象者：岡山市民（岡山市に在住・在勤・在学を含む）

人 数：7人

内 容：チラシをお参照ください。

### 2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

今までの事業や、他の事業に比べ、新たな視点や取組があれば記入してください。

全世界がコロナ禍に見舞われた令和2年、「持続可能な開発のための教育」活動であるならば、このような事態の時に停滞する活動であってはならない、むしろ、このような時こそ、救済や支援の手立てがうて貢献できる活動であることの真価が問われると意識し取り組みました。ESDは「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」であるのだから、コロナ禍にも希望が持て、新しい日常で、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育としての愛情と信頼が伝わり合う子育て、自己肯定感が育まれるコミュニケーションが学習できるようにしました。

コロナ禍で外出がしにくくなり家庭内でもストレスがたまりがち、今まで以上に、家庭での親子のコミュニケーション能力が重要になってきています。コロナ禍、オンライン化、必要とされる仕事や環境が急速に変わっていく中で、子どもたちに必要なことも、目に見えて大きく変わってきています。大人は何を大切に、どのように子どもに接していくのがよいかを講師と参加者とが双方向で交流し、全員参加型の学び合う場を提供し、新しい日常、子育ての不安や悩みなどを克服、苛立ちやストレスなどの解消等々ができ、心の平静と希望に満たされて幸せな子育てができるよう、「知育」「親業」「胎内記憶」の3つの観点から、子育ての知識や心の在り方や日常で起きる出来事の対処の仕方などを学ぶおはなし会をしました。

ESD事業で育みたい力が養われる人間関係を伝え広めていく活動に、今年度は、あらためて今一度、原点に立ち返り、本当に大切な育みたい力が育まれる人間関係を広めていくことに重点をおき活動しました。

### 3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

育みたい力は、心の成長で培われていく力であり、心の成長は人間関係（親子関係、師弟関係等々）で健全に成長するものであるから、育みたい力は人間関係の如何にかかっているといえるという大切な根本が、参加者や周囲の人達に伝わりました。

今年度の新規性として、愛情と信頼が伝わる人間関係で養われた相互扶助の精神と行動で、新型インフルエンザコロナウィルス感染拡大防止対策で影響を受けて起こる社会問題を未然に防ぐ、または、この難事を乗り越えていける心の教育、人間関係の学習と実体験を広げていくことに、特に重点をおいて活動をしていくことで、その理解と認識を広めることができました。

- ・今まで子育てやコミュニケーションについて学んだけれど、実践できない部分があったけどもとに戻ってしまうので不安になることが多かったが、安心して子育てができるという自信がもてるようになった。
- ・0歳児の子どもがおり、在宅ワーク中にどのように、どれくらい関わってあげるのがいいのだろうかかと悩んでいたが、子どもや妻への関わり方がわかって気持ち楽になった。
- ・知人から胎内記憶をもっと早く知りたかったという声を聞いて、自分も聞いてみたいと思って参加したが、胎内記憶を知ると、自分自身も子どももその存在が愛おしくなり子育てに喜びを感じられるようになった。
- ・親も子も、自分も人も、幸せになっていくコミュニケーションが学べて、本当によかった。さっそく実践します。
- ・いじめや虐待や自殺がなくなり世界が平和になると確かに思えて、このような会がもっと広まり、たくさんの人に届いて欲しいと願います。
- ・（取材してくださった山陽新聞 LaLaOkayama 新時代教育記事より）  
子育て情報があふれて、迷子になる人も多い中、新しい時代に 必要なことはこれ！と分かりやすく教えてくれるおはなし会でした。

### 4. 今後の課題と展望

- ・ コロナ禍を乗り越えるには、経済的支えは必要不可欠で大事ですが、精神的支えも必要不可欠です。両輪というより、むしろ、精神的支えにより生き抜く力、乗り越える力が土台になっての不屈の精神、逆境を乗り越える心があれば経済的な復興、発展は遂げられます。その発展は、経済優先主義的な発展ではなく、人と自然が共存共栄できる平和な社会づくりの土台となり持続可能な社会づくりの土台となるという視点で考え行動できる大人が増えるように活動展開していく。
- ・ ESD活動を実際に行っている人たち、ESDの普及活動をしている人たち、岡山市職員（ESD推進課）の人たちに参加していただくには、どのように工夫すればよいか、今回も参加がなかったのが今後の課題である。ESDプロジェクト参加団体の人達に関心を持ってもらい積極的に多くの人に参加していただく。
- ・ 教育機関（学校関係、幼稚園、保育園等）との連携。

(様式第 8 号)

- 行政との共働
- ESD活動をしている人達との連携
- 人間関係が人格や人生の形成の基盤であり、社会の基盤でもあるという根本、人間関係が改善されると現代のあらゆる問題が解決することを多くの人に気付いてもらえるような活動を展開していく。
- 日本人らしいESDの活動を、岡山から世界へ向けて発信していく。
- 誰一人も取り残さないことを確証できる実績を残す。